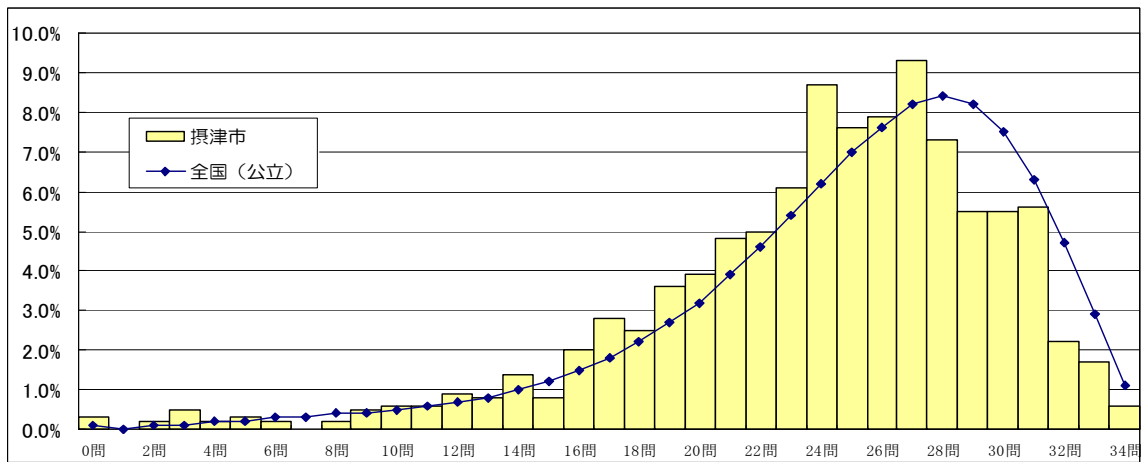


【中学校国語 A調査】

平均正答率が70.7%（全国73.6%）であり、今回出題された学習内容の知識・技能についてさらに身につける必要がある。

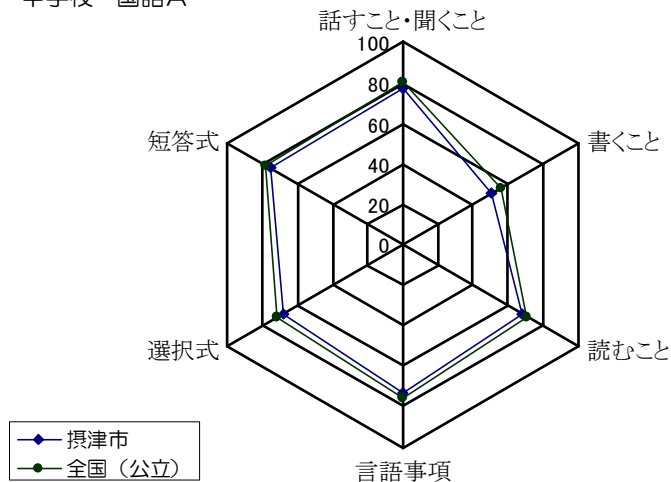
正答数分布



- ◆問題数は34問、全国においては28問にピークがくるなだらかな山型である。本市は、ほぼ同様の分布傾向であるが、27問をピークとし全国より山がやや左よりのなっている。
- ◆12問以上27問以下の中位層が全国を上回り、28問以上の高位層が全国より少ない。

領域別・問題形式別レーダーチャート

中学校 国語A



- ◆全体の傾向は、全国の状況と同じであり、同じ形を描いているが、どの項目でも全国の状況を下回る。
- ◆他の項目に比較すると「書くこと」の差が大きい。

【中学校国語 A調査】

話すこと・聞くこと

○話し合いの中で適切な発言をすることや、インタビューに関する問題では、相当数の生徒ができています。

4 菊の栽培に関するインタビュー (略)

山田 いつでも注文どおりに出荷するところが大変なんです。そのために品種改良をしたり、育て方を変えてみたりと、工夫をしています。あなたも夜に電灯をつけているビニールハウスを見たことがあるでしょう。

岩下 はい。見たことがあります。夜遅くまでついていますよね。夜遅くまで作業するのは、大変でしょうね。

山田 いえ、電灯をつけているのは、作業のためではありません。

岩下 えっ、本当ですか。作業はしていないのですね。では、なぜ

二 岩下さんは「作業ではありません」と聞いて、疑問が浮かびました。「では、どのような質問をしたら良いでしょうか。「なぜ」に続けて、実際に質問するように十字以上、二十文字以内で書きなさい。」

例 問題4の設問二
正答率 摂津市 90.2%
(全国 91.3%)

条件付き・記述式であるが、正答率は高い。
しかし、「話す・聞く」領域において、さらにさまざまな言語活動を織り交ぜながら充実させていくことが重要である。

書くこと

●文章の展開の仕方・組み立て方、またそれを分析・評価することに課題がある。

3 【小森さんの意見文】
現代は、メールが普及し、便利になつている。昔に比べると、気軽に素早くメッセージをやりとりとができ…… (以下略)

※問題提起・具体例・結論の3段落構成の文章

一 小森さんは、【村上さんの意見文】を読んで、自分の意見文の書き出しに次の一文を書き加えることにしました。

情報化と呼ばれる現代だからこそ、お互いに顔を合わせてのコミュニケーションを大切にすることが必要だ。

このことから、小森さんが村上さんの意見文をどのように評価したことが分かりますか。

1 村上さんの意見文は、読み手に問いかけるように自分の体験を紹介しているため、読み手の共感を誘う点が良い。

2 村上さんの意見文は、多くの人々が感じる疑問点から書き始めているため、読み手が話題をとらえやすい点が良い。

3 村上さんの意見文は、身近な例を挙げて説明しているため、書き手の考えが読み手に具体的に示される点が良い。

4 村上さんの意見文は、結論を述べてから論を展開しているため、書き手の考えが読み手に明確に伝わる点が良い。

【村上さんの意見文】
情報があふれている社会で私たちに必要なものは、必要な情報を選択する力と、情報の正しさを判断する力だと思ふ。 (以下略)

※1段落構成だが、最初に結論を明確に述べ、最後にもう一度念を押す双括法の文章

例 問題3 設問一
正答率 35.4% (39.7%)

このような意見文の場合、結論を先に明確にした方が分かりやすいと判断したという問題である。

文章を書く際の、論理展開の手法が理解できていない。したがって中には問題の意図が理解できなかった生徒も多かったと思われる。

序論・本論・結論や、まず結論から述べる頭括法と最後に述べる尾括法等の文章構成、また、事実と意見の書き分け、具体例を挟む等々の、文章を書いたり、色々な文章を吟味したりする際のスキルを、2つの文章を比較したり評価したりする活動等も通して、丁寧に指導していく必要がある。

言語事項

○漢字の読み書き、文脈に応じた語句の意味の理解等においては、全国と同様、相当数の生徒ができています。

例 問題6

一の3 漢字を書く「一定の温度をタモつ」	→	正答率 87.4% (83.5%)
二の3 漢字を読む「世界の平和を祈る」	→	正答率 97.5% (97.2%)
三のイ 類義語選択「説得する」	→	正答率 95.8% (94.9%)
八のイ 歴史的仮名遣い変換「ゐたり」	→	正答率 80.1% (81.7%)

●辞書を活用し、実生活に活かしていく力に課題がある。

例 問題6 設問六のイ「年頭」
正答率 31.2% (37.9%)

ア「街頭」の正答率は72.1% (71.6%)であるが、イ「年頭」は、このA調査で一番低い正答率となっている。

イ「年頭」についての誤答の内58.1% (50.3%)が2「上に立つ者」を選択している。「かしら(ヘッド)」のイメージが強いようである。

⇒言葉の意味・漢字の意味を辞書的に深く捉える力において課題がある。

例 問題6 設問七
正答率 35.5% (41.4%)
無答率 26.2% (22.2%)

問題の出題形式に惑わされ、問題の意図を捉えきれなかったとも考えられる。「金字塔」の意味として②を選択しながら「打ちたたてた」の部分はどう扱ってよいかわからなかった生徒が摂津市21.2% (全国21.8%)いる。

⇒実生活における辞書の活用体験の不足とも考えられる。文脈の中から意味を類推したり、辞書を引いて文言を変換したりするような言語にこだわった指導が求められる。読書活動の充実も重要な要素である。

6の六 漢和辞典で「頭」という漢字の意味を調べると、次の1から5の中からそれぞれ一つ選びなさい。
アとイに使われている「頭」の意味を、次の1から5の中からそれぞれ一つ選びなさい。
【漢和辞典】

【頭】 1首から上の部分。2上に立つ者。3はじめ。4動物を数える単位。5ほとり。付近。

ア 街頭 イ 年頭

6の七 中学生の森田さんは、本を読んでいて、一線部「金字塔を打ちたたてた」の意味が分からなかったため、国語辞典を引いてみました。あとの【国語辞典に載っていた意味】の中から①と②のどちらか一つを選び、その中の言葉を使って「金字塔を打ちたたてた」の意味を書きなさい。
【読んでいた本の一部】

中間子の存在を提唱し、物理学の一角に金字塔を打ちたたてたのは、湯川秀樹である。彼は、この業績によって一九四九年に日本人で初めてノーベル賞を受賞した。

【国語辞典に載っていた意味】

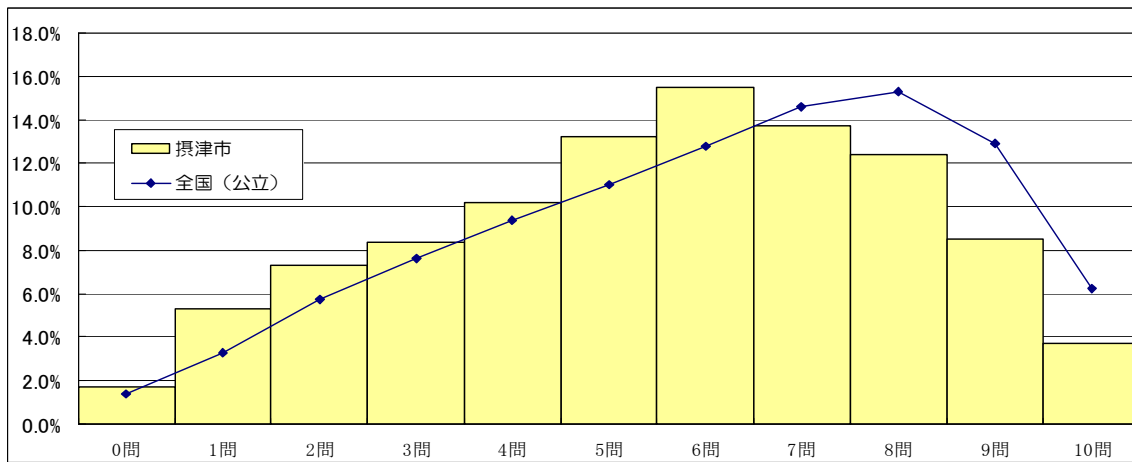
きんじとう 【金字塔】 ①(「金」の字に似ているところから)ピラミッドの別の言い方。

② 後世にまで伝わるような立派な業績。

【中学校国語 B調査】

平均正答率が55.4%（全国60.8%）であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。

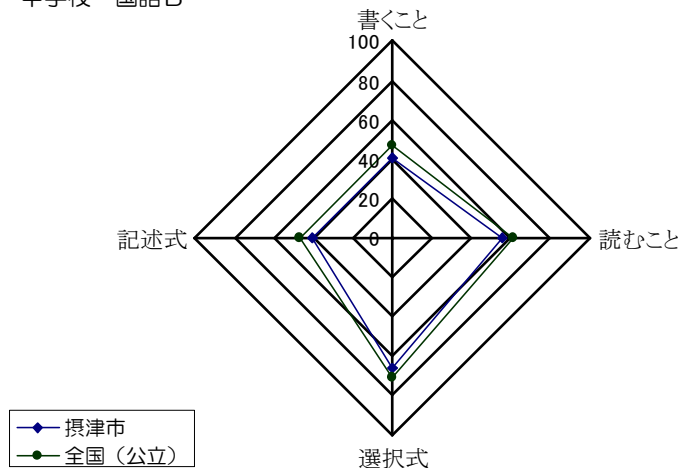
正答数分布



- ◆問題数が10問、全国においては8問にピークがくるなだらかな山型である。本市も同様のなだらかな山型だが、6問をピークとし山が左寄りとなっている。
- ◆7問以上の高位層が全国より少ない。

領域別・問題形式別レーダーチャート

中学校 国語B



- ◆全体の傾向は、全国の状況と同じであり、同じ形を描いているが、どの項目でも全国の状況を下回る。
- ◆特に「読むこと」に比べて「書くこと」においての差が大きい。

【中学校国語 B調査】

書くこと ①

●資料の中から必要な情報を取り出し、条件に合わせて文章を書くことに課題がある。

条件1 文章で報じられた新しい事実に基づいて書くこと。

条件2 「いつ」「だれ(が)」「何を」「どうした」という四つの要素をすべて含め、それぞれ文章の言葉を用いて書くこと。

条件3 「そして」という言葉に続けて書くこと。

2007年4月20日

花を咲かせるホルモンを発見
奈良先端科学技術大学院大学グループ

思いどおりの時期に植物の花を咲かせるホルモン「フロリゲン」が発見された。このホルモンは約70年前にその存在が提唱されたが、多くの研究者の努力にもかかわらず取り出すことができなかった。

去る4月16日、日本の奈良先端科学技術大学院大学は、「フロリゲンを世界に先駆け発見した」と発表した。奈良先端科学技術大学院大学のグループは、花に関係する遺伝子が作るタンパク質に着目。葉で作られたこのタンパク質が、茎の先端に集まって開花を引き起こしていることを突き止め、「フロリゲン」と断定した。イネを使った実験では、通常約50日から60日を要する開花を15日から20日で実現。また、イネの遺伝子を用いてキクの開花時期を早めることにも成功した。

1 花を咲かせるホルモン「フロリゲン」についての二つの資料。

【A】 フロリゲンの存在を提唱した学者の話、約1ページ。(原文略)
 結末は「残念なことにはまだ見つかっていない。実在するかどうかも定かでないまま、『幻のフロリゲン』と呼ばれている。」

【B】 ついにフロリゲンが日本の研究グループによって発見されたという資料。

例 問題1 設問三
 正答率 摂津市18.8% (全国26.5%) 無答率 21.4% (17.6%)

文章【A】の最後「まだ発見されていない」という部分を、文章【B】の中から情報を取り出し、「そして、ついに発見された」という文章に書き換える問題である。
 摂津市、全国とも、このB調査において極度に正答率の低かった問題である。

文章の理解については、設問一の正答率63.2%、設問二の正答率60.4%から見て、概ね理解できていると考えられるが、この設問三では18.8%に落ちている。
 3つの条件を設定されたこの問題のように、条件や指示がたくさんついている込み入った出題形式に対応する力に課題がある。
 このような出題形式に対応する力を養うこと、また、資料の中から「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」という情報を取り出す訓練等も必要である。

書くこと ②

●条件に合わせて文章を書くことに課題がある。

<p>条件1 「頼義」で終わるように書くこと。 条件2 「命令」という言葉を使って書くこと。 条件3 二十五字以上、三十五字以内で書くこと。 (文末の「頼義」の二字を含みません。)</p>	<p>B</p>	<p>A 暗闇の中で、頼義がいることを信じ盗人を「射ろ」と命令する頼信</p>	<p>1 福永武彦訳『今昔物語』間二十五第十二話より 「親子で馬盗人を追いかける話」 (源頼信と頼義親子のエピソードから、武士としての心構えを説く話) (原文掲載不可)</p> <p>*青木さんが文章中の重要なポイントに付箋を貼ったという設定の問題文</p> <p>三 青木さんは付箋を並べ直してみると、付箋②から付箋⑦は、次に示したように頼信と頼義の行動が対になっていることが分かります。これを参考にして、付箋Aと対になるように、付箋Bに当てはまる頼義の姿を、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。</p>
--	----------	---	--

例 問題2 設問三
正答率 39.1% (46.0%) 無答率 23.3% (21.9%)

【A】の付箋に対して、「頼信が必ず自分に『射ろ』と命令することを信じて弓を構えていた頼義」等、原文に即してAと対になるように答える問題である。

文章の理解については、設問一の正答率74.4%、設問二の正答率72.2%と概ね理解できているが、この設問三では39.1%と落ち込み、全国平均との差も前2問より広がる。無答率も高い。

一定の内容が理解できても、それを3項目の条件の中で、明確に文章表現する力に課題が見られる。条件付き作文に対応する力を養うとともに、二つの文章を比較して読んだり、対になる文章を書いてみる等の、多彩な言語活動を要する。

書くこと ③

- 昨年度大きな課題となった「記述式解答問題」における「無答率」の高さが、今年度、大幅に全国並みにまで減少したものの、依然課題が残る。

3 「気になる日本語」についての資料2つ
資料1 「『全然』について」Ⅱ中西さんのレポート
まんがイラストや二つの国語辞典の引用が挿入された1ページ。
資料2 「国語に関する世論調査」Ⅱ 「全然」の使い方
についての年代別棒グラフ他 1ページ

三 中西さんのレポートを読みながら、南さんと原さんは、「全然」の使い方について次のように話しています。

南 私は、「全然明るい」という言い方をしてもいいと思う。

原 私は、「全然明るい」という言い方はしない方がいいと思う。

あなたは、南さん、原さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を、解答用紙に書かれています書き出し文の□に書きなさい。その上で、あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 レポートにある国語辞典の記述やグラフの内容を根拠にして書くこと。

条件2 根拠とした国語辞典の記述やグラフの内容を具体的に挙げて書くこと。

条件3 「なぜなら、」に続けて、七十字以上、百字以内で書くこと。

例 問題3 設問三

正答率 48.4% (53.7%)

「自分の考えを、根拠を明確にして70字以上100字以内で書く」という、昨年度無答率の高さから大きな課題となった記述式解答問題である。

無答率 摂津市 13.2% (⇔全国 13.5% との差は 0.3%)

・今年度調査もう一つの記述式解答問題

問題2の四「頼信と頼義親子の関係を、四字熟語『以心伝心』または『不言実行』のどちらかと関連づけて80字以上120字以内で書く」〔正答率54.8% (60.5%)〕においても、
無答率 摂津市 29.8% (⇔全国 27.9% との差は1.9%)

・平成19年度問題Bの記述解答式は1問

問題2の三「自分の考えを80字以上120字以内で書く」〔正答率61.4% (74.8%)〕
無答率 摂津市 18.2% (⇔全国 10.1% との差は8.1%)

*無答率における全国との差は、昨年度 8.1%から、今年度 0.3%、1.9%と大幅に差が縮まったが、依然その率は高く、課題が残る。今後さらなる対応が望まれる。